

地下貯水槽解体・撤去時のダスト発生抑制

本廃炉公募テーマは、受付を終了しています。

募集内容



下記の課題に対する

・技術提案

を募集します。ご提案は、下記ボタンよりご投稿ください。

【課題・現在の取り組み】(2017.02.06 更新)

漏えいのあった地下貯水槽について、2016年度から解体・撤去の検討を開始。

作業時にはRO濃縮塩水に起因するダストの発生が想定されるため、周辺環境に影響を及ぼさないための対策を講じる必要がある。

対策にあたっては、架空送電線下での作業となることに留意する必要がある。

構造特性は、プラスチック枠材を積み重ねた構造体であり、地下空間規模は50m×50m×5m程度(容量:約10,000m³)、地上開口部は両端部2箇所にアクセス用マンホール(1m×1m)が存在。

ダスト対策として除染を行う方策もありうるが、その場合には除染に伴う汚染水発生量を抑制することが課題となる。

【関連情報、課題の背景など】

地下貯水槽周辺における放射性物質濃度の上昇について

http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2016/images1/handouts_160425_04-j.pdf

【知見入手希望時期、関連マイルストーン】(2017.04.11 更新)

—